

平成29年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
教育指導の充実に関する研究グループ

活 動 報 告

○研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びの理解と各学校の授業研究

① アクティブ・ラーニングを具体化した授業作り

② ICTを有効に生かすための工夫(先進事例の研究)

(2) 問題行動の理解, いじめ・不登校への対応の交流・研修

① Q-Uの効果的な使い方に関する研究

今年度の実践①

アクティブ・ラーニングを具体化した授業作り

日 時：平成29年9月27日（水）

場 所：名寄市立名寄西小学校 4年2組教室

授業者：名寄西小学校 教諭 三原和也

児 童

参加者：名寄市教育改善プロジェクト委員他 22名



授業作りを進めるにあたって

グループとして押さえる アクティブ・ラーニング

授業の目標や授業者の意図

目標(数学的な考え方)の達成が大前提

アクティブラーニングの視点で授業を見つめた時の具体的な子どもの姿を評価基準の形でまとめる

3つの視点からも授業を評価

主体的な学びの姿

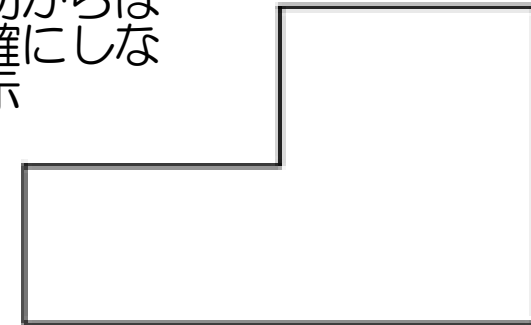
対話的な学びの姿

深い学びの姿

①考え方に向かうために

②すべての子が活躍できる授業展開

あえて最初からは
数値を明確にしない
問題提示



授業における子どもの姿（評価基準）

アクティブ・ラーニングの視点から授業の「子どもの姿の目安」を考える

※授業の目標はあくまでも「考え方」にあります。

主体的な学びの姿

- 活動の**見通し**があり、自分の考えを持ち、**振り返りがしっかりできている**授業
- 安心感のある学級風土により、**失敗も生かして、意欲的に学ぶ**ことができる授業

対話的な学びの姿

- 対話をしやすい学級環境**にあることが前提としてある。
- 根拠を明確にするなどの伝え方、聞き方をしっかりと身につけさせた上で、**考えの共有**ができる児童生徒を育成する。

深い学びの姿

- 支持的風土の学級経営が前提。
- 探究心を持って、**課題を掘り下げ、生活に生かす**ことができる。

授業の評価規準

複合図形の面積の求め方を図に補助線を書くなどして説明することができる。(考え方)

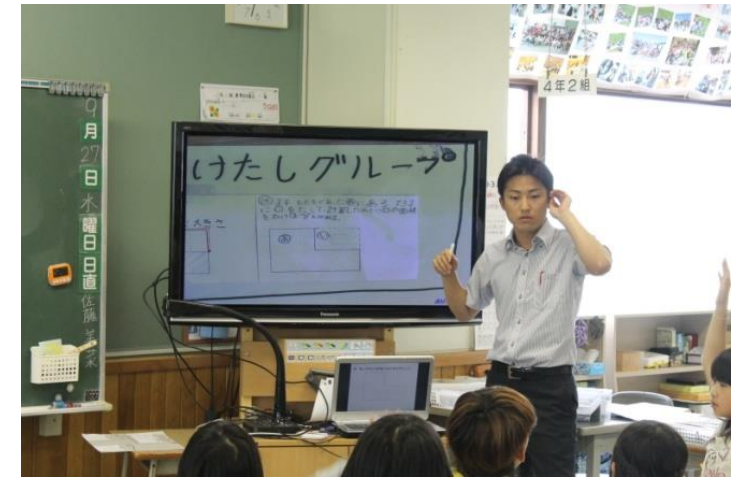
総括	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しがあり、自分の考えを持ち、振り返りがしっかりできている授業 ・決の手立てを生かす ・意欲のある学級風土により、失敗も生かして意欲的に学ぶことができる授業 ・ねばり強く取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○対話をしやすい学級環境にあることが前提としてある。 ・自信を持つ ○根拠を明確にするなどの伝え方、聞き方をしっかりと身につけさせた上で、考えの共有ができる児童生徒を育成する。 ・明確なゴールを設定し、状況に応じて変容する 	<ul style="list-style-type: none"> ○支持的風土の学級経営が前提。 ○探究心を持って、課題を掘り下げ、生活に生かすことができる。 ・各教科で身につけた能力の発揮 ・自分が何を学んだのかまとめる
図形の面積の求め方を二つの考え方をういて説明している。	<ul style="list-style-type: none"> 見通しの段階で、どこどこが同じ長さなのか探ろうとしている。 より分かりやすく説明している。 どの部分も説明の意図を聞き返す相手の考えを理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内のそれぞれの考え方について整理して、根拠を明確にしている。 グループ内のそれぞれの考え方について問分けしている。 グループ内の説明をするときに、根拠が明確になるように伝えるように工夫をしている。 友達の考え方の良さに気づき、自分の説明の仕方を改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> より簡単な面積の求め方を工夫したり、友達に分かりやすく説明できる方法を考えたとしている。 自分がこの時間で何を学んだのかを説明している。 補助線を引くと誰にでも分かりやすい説明ができるということを、別な機会でも生かそうと意識している。
複合図形の面積の求め方を図に補助線を書くなどして説明することができる(考え方)。	<ul style="list-style-type: none"> ○解決の見通しを持ち、自分の考えをもっている。 見通しの段階で、二つに分けたり、足りない部分を補うと長方形になることに気付いている。 自分の考えを「分ける」「合わせる」などの言葉を使って説明しようとしている。 学んだことを生かして、発展問題でも補助線を引いて、自分の考えを説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを使いながら、自分の考えを説明している。 ○グループ内で意見を出し合い、考えを共有しグループングしている。 自分の考えを自信を持って説明し、友達の考え方との違いに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キーワードを使い、児童の言葉でまとめている。 ■複合図形の面積の求め方を図に補助線を書くなどして説明することができる。 発展問題でも、補助線を引いて、自分の考え方を説明している。 グループで意見交換することにより、考えを深めることに繋がられたと実感している。
図形に補助線を引いている。	<ul style="list-style-type: none"> △T2コーナーで考え、方眼に書かれた図形を見て、見通しを持つようとしている。 見通しの段階で、今までは形が違うことから、長方形の面積のように簡単には求められないことに気付いている。 「これとこれを・・・」などの言い方で、自分の考えを説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方を、自分の言葉で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> △T2コーナーで、全体から一考え方について理解しようとしている。 補助線を引くことで、長方形の面積の足し算や引き算で複雑な図形の面積を求められることが分かる。



主体的な学び



対話的な学び



ICTの活用



深い学び

成果と課題

○授業実践を通して、アクティブ・ラーニングの学びについて研鑽を深めることができた。

- ・**学習のゴール**をしっかりと子どもに理解させることが、主体的な活動の姿に結びつく。
- ・**アウトプットの場**を意図的に設定することや支持的風土が醸成する**学級経営を充実**させることが、対話的活動の充実につながる。
- ・授業を振り返り、**児童が何を学んだのか**を確かめさせることが深い学びにつながる。

成果と課題

○授業では、目標を達成することが第1であることを押さえた上で、学びの手法としてアクティブ・ラーニングを実践・検証することにより、児童の深い学びに効果的であったかを研究することができた。子どもの姿を評価基準とすることで、主体的・対話的で深い学びの姿を明確にした授業を構築することができた。

●提案授業を通して、グループ交流や全体交流では、**対話する目的**を明確にして授業を構築する事が大切である。

今年度の実践②

ICTを有効に生かすための工夫(先進事例の研究)

日 時：平成29年11月20日（月）15:30～16:30

児 童：名寄市立名寄南小学校 視聴覚室

講 師：コンピューター・ビジネス

新規事業部 大山 善仁 氏

- 内 容：
- 1 教育ITの歩みについて
 - 2 電子黒板とタブレットパソコン
 - 3 意外と知らない無線LANの仕組み
 - 4 今後の教育ITの動向

参加者：38人

成果と課題

○ICT研修会では、学校教育にタブレットを活用するにあたって、各社にそれぞれ長所や短所があることを学んだ。

●名寄市に導入されるタブレットが決定した後に、そのタブレットを効果的に活用する方法について研修を深めることが必要である。



今年度の実践③

Q - Uの効果的な使い方に関する研究

日時：平成29年7月4日（火）

場所：名寄市立名寄南小学校 体育館

講師：旭川市立桜岡中学校 教諭 福岡伸康氏

参加者：名寄市教育改善プロジェクト委員他 75名



- ①児童生徒一人一人の満足感や意欲、
- ②学級集団の雰囲気や成熟状態の分析
- ③児童生徒の学級内での相対的な位置の分析の仕方

成果と課題

- 学級経営の中で，児童の実態を知る情報として Q - Uを活用し，担任だけでなく学校のチーム力を生かしながら課題を解決することの重要性を学んだ。
- 検査後に，**分析結果から具体的な改善策を立て，どのように指導していくのか，またその指導の効果がどうだったのか**，PDCAサイクルによる実践面での研修がさらに必要である。

今後の方向性

当初の計画

30・31年度の内容 学習指導・生徒指導の充実

1 主体的・対話的で深い学びの理解と各学校の授業研究

- 各教科等の特質に応じた学習活動の改善
- 単元のまとまりを見通した学びの実現
- 「見方・考え方」に着目した深い学びの実現
- ICT機器の効果的な活用
- 生徒指導の機能を生かした学習指導の充実

2 問題行動の理解、いじめ・不登校への対応の交流・研修

- Q-Uの効果的な活用の交流・研修

H29年の課題を受けて

- 提案授業を通して、グループ交流や全体交流では、対話する目的を明確にして授業を構築する。
- 名寄市に導入されるタブレットを効果的に活用する方法について研修を深める。
- Q-U検査分析結果から具体的な改善策を立て、その指導の効果がどうだったのか、PDCAサイクルによる実践面での研修。